

令和 7 年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立大宮光陵高等学校)

目指す学校像	校訓「自立、協調、創造」の理念のもと、確かな学力と専門的な能力を身に着け、情操豊かで、自主的・創造的な精神を持つ人間を育てる。
--------	---

重点目標	1 確かな学力の向上と自立する力の育成に向け、学習意欲を高める授業を展開し、生徒一人一人の進路希望実現を支援する。 2 グローバルな視野を養う機会を推進し、豊かな人間性と創造性を育み、様々な角度から物事を考え自ら率先して行動できる人材を育成する。 3 多様で特色ある本校の情報を積極的に発信し、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	13名

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月1日現在)		
年 度 目 標		年 度 評 価			達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 生徒・保護者ともアンケート結果から授業の満足度は高い。 【課題】 ①DX対応能力や情報リテラシー育成の経験的・体験的な過程を通した学びの実現が望まれている。 ②学力の向上はもとより、ICTの活用も期待されている。 ③キャリア教育における将来構想の体験的学習や人権意識の獲得と豊かな人間性の育成が求められている。	①新たな教育課程の編成 ②ICTの活用と授業改善による学力の向上 ③キャリア教育の充実とこれからの進路指導の基盤整備	①学習指導要領の趣旨を踏まえた適切な令和8年度教育課程を編成する。 ②-1 授業アンケートによる満足度調査を実施する。 ②-2 ICTを効果的に活用した授業づくりに取り組む。 ③-1 希望進路の計画的・系統的な進路指導プログラムを整備する。	①令和8年度の新たな教育課程を編成できたか。 ②-1 「学校自己評価生徒アンケート」の授業に関する項目の満足度結果が90%以上肯定的な回答であったか。 ②-2 ICTを効果的に活用した授業づくりに取り組めたか。 ③-1 希望進路の達成率が95%以上となったか。 ③-2 希望進路の計画的・系統的な進路指導プログラムを整備できたか。	① 情報Iを1年次に、総合的な探究の時間を各学年に1単位ずつ配置した。令和8年度入学生の新たな教育課程を編成することができた。 ②-1 授業に関するアンケート結果が、90%には達しなかったが、全て前年度より向上した。 ②-2 毎月1回のICT活用研修を実施した。 ③-1 第1希望の進路達成率は89.2%(1月9日現在)で、前年同期比の78.7%から10.5ポイント向上し、目標達成が見込まれる。 ③-2 進路指導と連携した3年間の「総合的な探究の時間」の指導計画を、今年度内に立案予定。	A	・学校自己評価アンケートの結果から、生徒・保護者ともに授業の充実の期待は大きい。ICT活用の校内研修や学習環境整備を進め、授業改善に向けた取組をさらに展開する。 ・進路指導と総合的な探究の時間の効果的な連携を図り、計画的・系統的なキャリア教育を実施する。
2	【現状】 学校行事や発表会、部活動の大会やコンクールなどが実施され、生徒の満足度は高い。 【課題】 ①学校行事をさらに盛り上げ、学校の一体感を醸成する。 ②海外との交流をさらに積極的に展開する。 ③見直した校則によって生徒の主体性を育む丁寧な指導を継続する。	①各学校行事の工夫と学科・部活動に関する情報発信 ②姉妹校との連携内容の新たな展開 ③-1 時代のニーズに応じた生徒指導 ③-2 組織力を活かした継続的な生徒指導	①-1 生徒の主体的な取組によって学校行事を活性化させる。 ①-2 HP、公式SNS等で積極的に情報発信し、生徒保護者の満足度を高める。 ②-1 姉妹校訪問を実施する。 ②-2 情報機器等を活用し、同時進行型の交流活動を試みる。 ③-1 生徒の主体性を育む生徒指導を推進する。 ③-2 生徒指導部を中心とした学校組織の機能を活かした生徒指導を行う。	①「学校自己評価生徒・保護者アンケート」の学校行事に関する項目の満足度結果が生徒、保護者ともに90%以上の肯定的な回答であったか。 ②-1 訪問した成果を全校に還元できたか。 ②-2 新たな交流活動を具体的に展開できたか。 ③-1 「学校自己評価生徒アンケート」の基本的な生活習慣に関する項目の結果が、90%以上の肯定的な回答となったか。 ③-2 「学校自己評価生徒アンケート」の学校生活に関する満足度結果が90%以上の肯定的な回答となったか。	① 学校自己評価アンケートで、学校行事に満足という回答が生徒・保護者ともに93%であった。 ②-1 事後学習でポスター発表を行い、全校で共有した。 ②-2 事前学習で姉妹校と初めてオンライン交流を行った。また、次年度ニュージーランド研修を新たに立ち上げることができた。 ③ 学校自己評価アンケートで、基本的な生活習慣について、生徒から87.4%の肯定的な回答を得られた。また、学校生活に関する満足度については、生徒から95.3%の肯定的な回答を得られた。	A	・生徒の主体的な取組によって学校行事を活性化し、ホームページや公式SNS等を活用して積極的に情報発信することで、生徒および保護者の満足度を高める。 ・国際理解教育を全校生徒で共有するための仕組みを工夫・構築する。 ・次年度、制服着用基準の新設に伴い、見直した校則を基に、適切な生徒指導を展開する。
3	【現状】 学校情報の発信には工夫を加える必要がある。一方、地域との連携は上手く機能しており、市内には本校のファンも多く、評判は上々である。 【課題】 ①タイムリーな情報発信と内容の充実を保護者から要望されている。 ②創立40周年記念事業の成功及びP T Aと学校の連携の活性化が期待されている。 ③地域交流や地域行事への参加による本校の特色・魅力の積極的かつ効果的・効果的な発信が求められている。	①SNS等を有効活用した情報発信 ②創立40周年事業の記念誌の編纂と刊行 ③-1 地域社会との交流活動の実施による情報発信 ③-2 新たな働き方改革基本指針を踏まえた地域連携の見直し	①-1 HP・メール・通知などを適時適切に保護者へ案内する。 ①-2 SNSなどの情報発信媒体の有効活用を推進する。 ②実行委員会を中心にPTA・同窓会や各担当と緊密に連携し、記念誌を刊行する。 ③-1 地域の小・中学校との交流を継続し、本校の特色を積極的に発信する。 ③-2 交流活動を精選する他、業務内容の軽減を推進する。	①-1 行事等の案内を実施日の2週間前に発信することができたか。 ①-2 公式Instagramを開設した部活動等は増加したか。 ②予算内で年度内に記念誌を刊行し配布することができたか。 ③-1 小学生・中学生の参加者は増加したか。 ③-2 交流活動の業務の負担を軽減することができたか。	①-1 学校行事の情報発信を2週間前にほぼ行うことができた。 ①-2 学校公式Instagramを5月に開設することができた。 ② 実行委員会を中心に、予算内で記念誌を刊行できる予定である。 ③-1 小学生や中学生の高校見学、中学校での説明会、児童生徒同士の交流等を計画どおりに実施することができた。また、新たな取組の「職場体験未来ワーク」では、地域の期待に応えることができた。 ③-2 昨年度の交流活動を精選することにより、業務の負担を軽減することができた。	A	・学校HPの刷新と公式Instagramの活用により、情報発信を充実させ、学校の認知度向上と生徒募集につなげる。 ・新たに始めた中学校訪問等の生徒募集活動を、組織的・継続的に進める。 ・次年度以降も、地域との交流や地域行事への参加を通じて、学校の特色や魅力を積極的に発信する。

学校関係者評価	実施日 令和8年2月5日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・職業観について、生徒が本気でわくわくできるものを見つけてあげられるかが大事。芸術三科の生徒は、中学卒業時点で自分のやりたいことを見極めて入学してきている。一方、普通科の生徒は、学力や校風を理由に選んできた子が多い傾向にある。普通科の生徒にとって、高校での教科学習の中でこそ、そうした動機づけの機会を創出することが重要。 ・進路を実現するうえで最も大切なのは、生徒自身の適性や興味に合った進路先を選択することである。こうした多角的で個別対応の進路指導を、今後も継続して行ってほしい。 ・アンケート結果から授業の課題が明らかになっている。寄せられたご意見を丁寧に精査し、具体的な改善案として来年度の教育活動に反映させてほしい。</p> <p>・他者を尊重する雰囲気は、大宮光陵の特筆すべき特徴である。これを今後も継承してほしい。制服の男女指定廃止は、生徒の個性や多様性を尊重する姿勢が表れており、良い取り組みだ。 ・情報過多の時代だからこそ、真実を見極める力が求められている。インターネットで調べれば表面的な知識はすぐに得られる。しかし、真の理解と実践的な力は、実際に試行錯誤しながら取り組むプロセスの中にこそ醸成される。大宮光陵は、こうした実践的な学びを教育の中核に据え、丁寧に取り組んでいるという印象を受ける。この実践的で体験的な学習活動の充実、同校の大きな特徴であり、今後もさらに大切にしていきたい。</p> <p>・私学の無償化により選択肢が増える中、生徒の学校選びに大きな変化が生じている。中学生は、直接訪問する前にインターネットで複数の学校を検索し、情報収集を行っている。ネット上での宣伝や情報発信が充実している学校は、初期段階で生徒の関心を集めやすく、自然と候補校として検討される傾向がある。 ・定員割れの改善は喫緊の課題である。学校の独自の良さをより積極的に発信し、魅力を高めることが重要である。こうした課題に取り組むながらも、大宮光陵らしさを失わず、着実に発展させていくことが大切。</p>	